

俳人協会創立六十周年記念

令和三年高知県支部「秋の俳句大会」募集句成績

令和三年十月二十四日(日)

於 自由民権記念館大ホール

大会賞(岸本尚毅特選)

尻軽の蠅取紙のゆれてをり 香美市 野村 里史

喜雨の来て畑それぞれの音となる 香南市 乾 真紀子

青年に明日ある別れ駅晩夏 香南市 那須三智子

秀逸

草笛を吹いて呉れたり舟大工 高知市 大窪 雅子

石だけの墓に団栗ひとつ置く 高知市 横山すまこ

早稲の香や土佐は日の国水の国 四万十町 藤原佳代子

島に着く医師の鞆や土用波 四万十町 亀井雉子男

何もありませぬが氷水どうぞ 高知市 東谷 晴男

佳作

天牛の髭はね上げて物申す 高知市 藤岡 毬和

避難塔櫓に手結の盆踊 高知市 今田 幹雄

コロナには登音のなし油照 香美市 山崎 鈴子

法師蝉鳴いて白バイ帰りゆく 高知市 下元 永博

親からの半農半漁大根蒔く 高知市 石坂陽太郎

湯気立てて姫と名のつく今年米 南国市 橋詰 千恵

かなぶんを自由の闇に放ちけり 高知市 小島久美子

語りつぐかの日の地獄八月来 香美市 岡崎 桜雲

万策の尽きて病葉拾ひけり 宿毛市 宮尾 直美

土佐湾の海鳴りの風夜の秋 室戸市 岡本 佐保

一筋の光投げ入れ鮎を釣る 高知市 信清 澄恵

梅干しの種吹き飛ばす豊の秋 四万十町 中平由紀子

孫帰省時に鳴りだす巻ゼンマイ 高知市 古谷 桜子

かにかくにうれし昭和の扇風機 佐川町 市川 千年

潮騒の届く慰霊碑風死せり いの町 平井 静江

味元昭次特選

きのふより遠き瀬音や秋の風
コロナには寢音のなし油照
梅干の種吹き飛ばす豊の秋

宿毛市 宮尾 直美
香美市 山崎 鈴子
四万十町 中平由紀子

岡崎桜雲特選

法師蝉鳴いて白バイ帰りゆく
島に着く医師の鞆や土用波
孫帰省時に鳴りだす卷ゼンマイ

高知市 下元 永博
四万十町 亀井雉子男
高知市 古谷 桜子

石坂陽太郎特選

天牛の髭はね上げて物申す
目尻も引つ詰め結へり祭髪
草笛を吹いて呉れたり舟大工

高知市 藤岡 毬和
香南市 乾 真紀子
高知市 大窪 雅子

乾真紀子特選

動かぬと牛の決め込む秋日和
何もありませぬが氷水どうぞ
一筋の光投げ入れ鮎を釣る

高知市 石塚陽太郎
高知市 車谷 晴男
高知市 信清 澄恵

植田紀子特選

石だけの墓に団栗ひとつ置く
避難塔櫓に手結の盆踊
万策の尽きて病葉拾ひけり

高知市 横山すまこ
高知市 今田 幹雄
宿毛市 宮尾 直美

松林朝蒼特選

喜雨の来て畑それぞれの音となる
土佐湾の海鳴りの風夜の秋
草笛を吹いて呉れたり舟大工

香南市 乾 真紀子
室戸市 岡本 佐保
高知市 大窪 雅子

亀井雉子男特選

親からの半農半漁大根蒔く
早稲の香や土佐は日の国水の国
湯気立てて姫と名のつく今年米

高知市 石坂陽太郎
四万十町 藤原佳代子
南国市 橋詰 千恵

山本呆齋特選

かなぶんを自由の闇に放ちけり
語りつぐかの日の地獄八月来
喜雨の来て畑それぞれの音となる

高知市 小島久美子
香美市 岡崎 桜雲
香南市 乾 真紀子

高知県支部「秋の俳句大会」当日句成績

大会賞

登山靴逆さに干して秋高し 高知市 由藤 千代
 すこしだけ泣いて夜寒の本閉じる 高知市 田村 乙女
 飛ぶものの影ゆつたりと大花野 高知市 山本 敏子

秀逸

一声に遠き一声月の鹿 四万十町 藤原佳代子
 澄む水を吸ひ上ぐ速き荒砥石 香南市 乾 真紀子
 会ふ人は皆大らかや柿の里 高知市 石坂陽太郎
 稲刈りし夜は青々とほひけり 香美市 野村 里史
 海を背にくぐる鳥居や菊日和 いの町 平井 静江
 歩けさう歩こう月の渚まで 四万十市 亀井しげみ
 瓢箪に栓して父の逝きにけり 高知市 川田 達子
 預けたる子を抱き取る秋の暮 高知市 池沢 みえ
 流星やポストに一つ良き知らせ 高知市 山岸 孝子
 紙漉の黄蜀葵搗く白や小鳥来る 高知市 松林 朝蒼
 新米の命の音をてのひらに 香美市 山崎 鈴子
 蚯蚓鳴くみんなてんでに齡とりし 高知市 田中 杏
 人はみな人にこだはる秋の風 四万十市 亀井雉子男
 咳こめば秋思もなにもかも失せぬ 高知市 東谷 晴男
 この空になればそろそろ秋祭 高知市 津田吾燈人

岸本尚毅特選

初鴨の今日来たりしと螿蟀捕 高知市 松林 朝蒼
 瓢箪に栓して父の逝きにけり 高知市 川田 達子
 預けたる子を抱き取る秋の暮 高知市 池沢 みえ

俳人協会高知県支部長 岡崎桜雲特選

空海も俯瞰せし海雁渡る 高知市 山岸 孝子
 すこしだけ泣いて夜寒の本閉じる 高知市 田村 乙女
 秋灯父のほひの父の本 四万十市 稲田 喜子

俳人協会高知県支部副支部長 俳誌「游」代表 石坂陽太郎特選

あるがまま揺れ女郎花あるがまま 高知市 津田吾燈人

新米の命の音をてのひらに 香美市 山崎 鈴子

人はみな人にこだはる秋の風 四万十市 亀井雉子男

俳人協会高知県支部副支部長 乾真紀子特選

すこしだけ泣いて夜寒の本閉じる 高知市 田村 乙女

歩けさう歩こう月の渚まで 四万十市 亀井しげみ

一声に遠き一声月の鹿 四万十町 藤原佳代子

俳人協会高知県支部顧問 「夏爐」主宰 松林朝蒼特選

笛になる竹伐り並べ神の庭 香南市 乾真紀子

蚯蚓鳴くみんなてんでに齡とりし 高知市 田中 杏

一声に遠き一声月の鹿 四万十町 藤原佳代子

俳誌「四万十」主宰 亀井雉子男特選

蓑虫の簞取り去ればただの虫 四万十町 中平由起子

咳こめば秋思もなにもかも失せぬ 高知市 東谷 晴男

蕊絡むままに枯れゆく彼岸花 高知市 川田 達子

俳誌「梨花」主宰 山本 呆齋特選

この空になればそろそろ秋祭 高知市 津田吾燈人

満ち潮の匂い膨らむ十三夜 高知市 小島久美子

朝霧に豆腐屋の灯のともりけり 四万十町 藤原佳代子